

大学入試動向説明会より

試験も間近に迫り、文系・理系の選択で悩む、考える生徒も多いことだろうと思います。自分の将来のことですから、悔いの残らないように決めていくしかありません。

簡単に、成績で夢をあきらめていいのかというのは大きな問題です。どんなに難しい夢であったとしても、あきらめてしまえば、絶対にかないませんし、あきらめたことを悔いるようならチャレンジすることも重要です。

しかし、夢にチャレンジして誰もが叶うわけではありません。夢を実現するには実現するの努力も必要です。特に大学受験については、現在の実力と、「現役で」という制限時間の中で目標までの努力をしなければいけないわけです。そして、イメージとしての夢は、具体的な職業になったとき、本当に自分に向くのかを考えなければなりません。

本当に大変ですね。

でも、一方で、私たちはあなたがたの可能性が羨ましくもあります。私たちにくらべればあなたがたにはいくらでも可能性が広がっているのですから。すでにケーキを選んでしまった私たちからすれば、ケーキを選ぶ作業はどんなに大変であったとしても羨ましいものです。

さて、先日、駿台で行われた大学入試動向説明会の内容をざっとお知らせします。大学の難易度や科目、キャンパスなどの情報は、面接の中でも、質問が多いものです。現在の大学入試動向は、非常に複雑で難解であり、全ての情報を得ている人などというのは、どこにもいません。だからこそ、自分で情報を得ていくことが必要です。しかし、こうした情報をまとめることが大変であるがゆえに、データをきちんと把握する力を持っていると、2012年、君たちの受験大学を決める際には、決定的に有利に戦いをすすめることが可能なのです。なぜなら、世の中には、間違った古い情報や、全員一緒のマス（大衆）の情報だけを受身につかむ人が大半なのですから。それでは、簡単に説明していきます。細かい質問がある人は、自分で調べ、また、遠慮なく相談に来てください。



大学入試人口

1992年に121万5000人いた受験人口は、すでに73万4000人となっています。受験人口と入学定員を比べた倍率は1992年が1.80倍だったのに対し、1.12倍と大学全入時代と呼ばれる状況になってきています。間違いなく、親世代の受験のイメージと現代の受験のイメージは異なるものになっています。

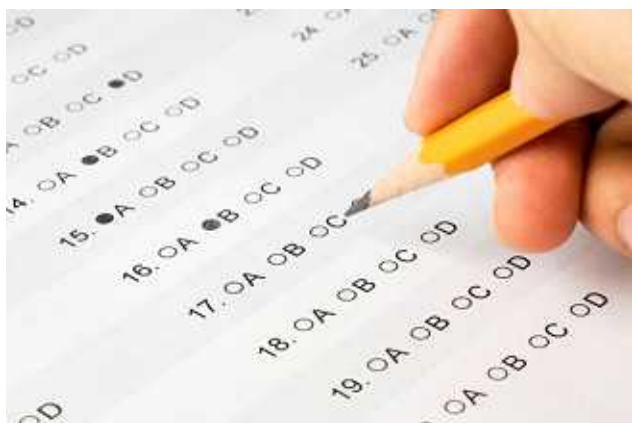
これまでの学年通信でも書いてきたように、大学は受験生集めに躍起となっていて、大学のレベルも一変しています。

だからといって、全ての大学の難度が下がるわけではありません。私立大学については、わずか3.7%の主要22大学で、全体の約半数の受験者を占有しているのです。この3年間についても、主要22大学の受験者数はむしろ上昇しています。つまり一極集中の受験状況になっているわけですから、どこでも入りやすくなっているのではないのです。

とはいえ、全体からすれば、よほど入りやすい状況が続いているのは事実だといえます。

大学入試センター試験

大学入試センター試験は、親世代では共通一次と呼ばれていました。国公立の一次試験として使われている点では、現在でも変わりませんが、決定的に異なることは、センターで課す科目が、各大学で決定している、すなわち、各大学によって、科目数まで異なっているということです。



国公立では、一般的に5(6)教科7科目のパターンが多いのですが、もちろん文系か理系化で必要な科目が異なります。また同じ理系の中でも、理科・社会の選択科目や、国語の範囲などにも細かい制限が、大学ごとに決められているので、本来は必ずこうだというパターンはないのだと言えます。国公立の中にも、少ない科目で受験できる大学もあるのであります。

私立ともなると、同じ大学でもセンター利用がある大学、ない大学がありますし、同じ大学でも学部学科であるなし、科目数などが異なります。同じ学部でも、2科目、3科目、4科目など、複数の科目数で定員を分けている大学もあります。早稲田の法学部などは東大受験生を狙うべく7科目を課しています。

このような状況ですので、大学入試センター試験自体は今年でも54万程度の出願が見込まれており、そのうち現役生が43万人とこの10年間ほぼ変わらない人数が受験している状況が続いています。

主要私立 学部学科・キャンパス情報

親世代と大きく違うのが、学部学科の改組やそれに伴うキャンパス移転です。こうした改組や移転により、大学入試の難易度が異なるのは当然のことです。昔のイメージで大学を見てはいけません。

早稲田大学

文学部・文化構想学部 戸山キャンパス 旧第一文学部と夜間主であった第二文学が統合、改編されたものです。つまり夜間主の文学部は現在ありません。

法学部・政治経済学部・商学部・社会科学部・教育学部・国際教養学部 早稲田キャンパス 社会科学部 = かつては夜間主でしたが、昼夜開講を経て、現在は午前から授業をしています。内容もかつては政経の夜間の位置づけでしたが、現在は社会科学として政経とは内容的にも異なる編成となっています。当然難易度も、政経、商に次ぎ、ほぼ商学部と変わらないところに上がっているのです。

教育学部 = 初等教育が新設され、難関となりました。基本的に早稲田の教育学部は教員養成系ではない教育学部です。つまり、卒業に教員免許の取得が必須でなく、卒業時の学士も教育学士ではなく、文学士など、専攻科目にまつわる学士になることが多い学部です。「教育学部」をとったところが、専攻であると思ってよいでしょう。

国際教養学部 = 英語を学ぶというより、英語で学ぶという学部です。英語で全ての授業が行われるというインターナショナルスクールのような学部です。

基幹理工・創造理工・先進理工 西早稲田キャンパス

旧大久保キャンパス(高田馬場近く)が、地下鉄の駅ができたことにより、西早稲田キャンパスと名称変更しました。場所は変わりません。学科改編を行って、理工学部がこの名称の3学部となっています。

スポーツ科学・人間科学 所沢キャンパス 現在のスポーツ医科とスポーツ文化の2学科が統合され、スポーツ科学になります。入試形式にスポーツがありますが、本校のクラブ活動程度の実績では入りませんので、学力分野の狭き門をくぐる必要があります。

慶応大学

文学部 1年次日吉 三田

法学部・経済学部・商学部 1・2年次日吉 三田

経済学部・商学部は数学利用のA方式と数学のいないB方式があります。あきらかに数学利用の方が入りやすくなります。慶応志望者は、苦手でないのなら、Bまででよいので理系と同じレベルでつめておくことが重要です。

理工学部 1・2年次日吉 矢上

医学部 1年次日吉 信濃町

薬学部 1年次日吉 芝共立

薬学部は、共立薬科大学との統合により生まれた学部です。したがって、2年次以降は共立のキャンパスとなります。

看護医療 湘南藤沢 1・2・4年次 3年次信濃町

総合政策・環境情報 湘南藤沢

通称SFCと呼ばれる湘南藤沢キャンパスは、他の学科に比べると若干難易度が落ちることは事実です。しかしながら、小論文入試がほぼ課されている慶応全学科の中でも、SFCの小論文はボリュームも多く手ごわいもので、受験勉強とともに非常に高いレベルの問題意識、課題解決能力、プレゼン能力が問われます。

上智大学 全学部四谷キャンパス

外国語学部は看板学部で、毎年定員に若干足した程度の合格者しか出さない学部です。理系では現在、理科2科目と理科1科目を併用できる形にしていますが、もともと1科目であった学部であるだけに今後どういう動きになっていくのか目が離せません。

東京理科大

理学部 神楽坂

工学部 九段、一部は神楽坂

理工・薬 野田

基礎工学部 1年次長万部（北海道） 野田

経営 久喜（埼玉）

2013年に、金町に葛飾キャンパスが開設され、理・工・基礎工の一部の学科が移転予定となっています。理科大は、常々、久喜の経営学部の移転や、野田の理工学部の移転が噂として流れてきましたので、新キャンパスの完成に伴い、野田や久喜の学部に移転が行われる可能性もあるでしょう。その意味でも目が離せません。また、キャンパス移転にはお金がかかるため、私たちの経験上、1年前の2012年には確実に定員を確保する合格発表をされると考えられますので、君たちの代は理科大のチャンスが膨らむ年だと言えるでしょう。難易度でいうと、やはり、理工、基礎工、経営が入りやすくなります。

明治大

文系学部 1・2年次和泉（明大前） 駿河台

理系学部 生田

国際コミュニケーション 和泉

明治もアクセスとして悪く感じる生田はあまり高くなく、国際コミュニケーションも他の文系学部より入りやすいのは事実です。

青山学院

現在は1・2年次相模原から3・4年次青山にくる青山学院ですが、2012年度より、文系学部は全て青山キャンパスで学ぶことになりました。正直なところ、現在MARCHクラスでは、明治と立教が難関になりつつありますが、これで青山の文系も盛り返して行くことが間違いありません。直接の影響を受けるのは同じミッションのイメージが強い立教でしょう。理工と社会情報の2学部は相模原キャンパスで4年間学ぶことになります。

中央大

理系 後樂園

文系 多摩

中央大学はその立地からか、文系学部は敬遠されがちです。看板学部の法学部をのぞきやや入りやすさがあります。

法政大

文・法・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン・グローバル・デザイン工 市ヶ谷
経済・社会・現代福祉・スポーツ健康 多摩

情報科学・理工・生命科学 小金井

法政は、学部配置が複雑で分かりにくい面がありますので、注意が必要です。一般的に、ですが、やはり多摩キャンパスと市ヶ谷キャンパスでは多摩が敬遠され低い傾向があります。経済（多摩）と経営（市ヶ谷）あたりでは似ている学科系統ですが明らかな差があるように感じます。

学習院 全学部 目白

国公立大学入試動向

さまざまな現状の中で、必ずしも難関でなくなってきたのが、国公立の現状です。保護者面談の中で、多く聞かれるのが「できれば国立へ」というセリフですが、難易度だけで考えれば決して難しいことではありません。大事なことは、5教科7科目という負担感の高いセンター入試の準備をすることと、地方にともなう下宿などの仕送りをどう考えるかということ、そして都内私立と就職の関係でどう位置づけるか、というご家庭の価値観によります。ここではそうした着目のポイントと、現在の状況をテーマごとにいくつか解説していきます。難関大学志向

東京大学を中心に最難関大学の難易度は、決して下がってはいません。ここでいう最難関とは、東大、国公立医学部のことです。とはいえ、逆に難易度が上がっているわけでもありません。特に国公立医学部については、「新医師確保総合対策」によって、各大学わずかではありますが、定員を増やすこととなります。したがって、ほんの気持ちではありますが、若干入りやすくなります。もちろん、センターで90%以上を求め、理科でも3科目を要求するような困難さはあるわけですが。

安全志向 後期入試の位置づけ

東工大、旧帝大あたりの二番手校と筑波大学あたりのレベル差がなくなっているのも事実です。駿台では、河合塾と異なり、大学ごとにB判定ライン、C判定ラインを設定していますが、筑波大学のB判定ラインと東工大のC判定ラインがほぼ同じで推移しています。つまり、より確実に合格したいなら筑波大であるだけなのです。逆にいえば、「安全」「絶対」などという言葉を用いる限り、東工大を受けるのは、本来東大に届く層だけになってしまいます。

事実、この傾向がより鮮明に表れるのが後期です。後期受験は生徒達がより敬遠するために、欠席率が東工大一橋大でも50%を超え、倍率は2倍程度に下がります。データを見る限り、現実に東工大の後期を合格するのは、東大から下げた生徒達です。優秀な子たちが受かるのではありません。東工大を前期で受けなかった、東工大第一志望の生徒たちよりも、模試の偏差が低い子たちが受かるのです。なぜなら、東工大を受けたからです。前期で東工大が50%程度の本来受当なはずの子たちは「安全」「絶対」「現役」のために、ワンランクツーランク下げ、下の大学にしてしまうので、受からないのです。当たり前です。受けないものは受からないのです。駿台全国模試で60ぐらいの子が回避するがゆえに、50程度の東大前期志望者でも後期で東工大に受かるという現象が起きているのです。



ちなみに50程度であるとする、本来は千葉大筑波大レベルのはずです。もちろん、理科が2次でも2科目、問題としても難問対策をしていることが前提にはなっています。

このように、大事なことは、目標を設定し、それに対する適切な準備をすることが大切です。保護者の方の中には、「絶対現役」「絶対国立」「絶対家から通える」ということを強調する方がいらっしゃいますが、ナンセンスです。もし、それが理系でも国語を捨てているようなお子さんに対して言うのなら、文系で数学をやらないお子さんに言うのなら構いません。しかし、ある程度、志望校の可能性が見えている、ある程度結果が出ているお子さんに対し、センター後の出願大学選定の瞬間なら仕方ありませんが、今から志望校を下げさせるような言葉をかけてどうするのでしょうか。お気持ちはわかりますが、現在は口にすべき時ではありません。まず、高い目標を持ち、その目標のためにそれなりの努力をすることが一番大切な時期なのであります。

むしろ、「浪人してでも行きたい大学に行くんだ」という強い気持ちを持つことが重要なのです。どんなお子さんでも浪人したいと思っている生徒はいないので。

地方の問題

地方大学も大きな岐路に立っているようです。北大、東北大といった旧帝大は今や、地方大学、地元の大学になっています。つまり、地元の学生以外の志願率が非常に低くなっていて、その結果、筑波大学より少し上程度のイメージなのでしょう。

どうして、こうした名門大学、たとえば北大農、東北理工などを避ける必要があるのでしょうか。

下宿費用は確かに問題かもしれません。しかし、東北や北海道であれば、筑波よりも家賃は安いでしょう。現実に中央や法政、一橋や首都大、横国、学芸など、通えないこともなかった都内各大学に通っていた生徒が結局下宿を始めるケースも多々耳にします。都内では家賃だけで7万程度は覚悟することになりますから、おそらくそれに比べれば半分以下です。

少なくともはなからはずす大学ではありません。

もちろん、就職の問題もありますから、一概にそうした国立を勧めることはありません。しかし、千葉大クラスの国立と比べた時に、やはり魅力があるのが事実です。逆に千葉大クラスと東京理科大を比べて理科大だというのは、そこまでの魅力はないのかもしれませんが、もし千葉大だというのは、旧帝大を視野に入れることは大事なことだと思います。

ノーベル賞で沸いた名古屋大をはじめ、こうした大学、特に理系にはCOEの研究予算も多くついているものすごく研究には向いている大学です。これらを回避しているのが、「家から通える国立」というものなら、本当にもったいないこと

だと思います。

実際に、柏から1時間程度で通える大学は、千葉、東京、お茶の水が確実に、筑波がぎりぎりといったところでしょうか。横浜国立、首都大、東工大、学芸大、一橋大あたりでは、2時間近く、あるいは2時間強かかると思われます。

センター試験科目の変更による影響

2012年、君たちの代からセンター試験の時間割変更が行われ、結果としてセンターの試験科目の指定に変更が出そうです。大きく分けると次の2点です。

理科が現在科目の組み合わせで3時間分当てられているものが、2時間の通しになり、結果として、自由に2科目組み合わせられる。その結果として、医学部を中心としたセンター理科3科目指定ができなくなり、2次試験と合わせて3科目をやるような形に変わる。

社会は現在地歴で1時間、公民で1時間となっているが、これが通しの2時間となり、地歴のみの指定をかけることが可能になる。その結果として、主要国公立では、地歴公民は4単位科目のみとするケースが多くなっている。(4単位科目=世界史B、日本史B、地理、倫理政経)

この変更がどういう影響を生むのかが最も気になることでしょう。まず、理系の国立志望



者は2年次に始まる地理をしっかり対策することが重要です。次に文系国立志望者、理系で地理が合わないものは、今まで現代社会であったものを倫理政経に変更することになります。本校でも3年次には倫理政経対策の講座を開く必要があるだろうと考えていますし、基本的に現代社会と倫理政経で方向性が変わるわけではありません。倫理も世界史をしっかりやっていると大半は文化史でカバーされるわけなので、あまり問題がないといえるでしょう。

最も重要なことは、現高校2年生は現役の時は現代社会で受けられたのに、浪人をする科目変更を余儀なくされるということです。つまり、できれば浪人したくないという安全志向に働きがちです。過去、私たちが知る限り、変更前夜は必ず弱気の風が吹き荒れます。このことは本来、ひとつ上の学年が受験時に強気で攻めた方が得をするという事態を生むのですが、今回の私たちについていうなら、強い浪人生がワンランク下げて現役で行ってくれる、つまり、現役優位の年になるのです。

だからこそ、夢は大きく、国公立難関、東大、東工大、一橋、旧帝大をがんがんに狙うのが、この学年なのです。

未知の世界を切り開き、社会に貢献する、自立した「人財」へ

目標とする人間像

「気づき」のある人間 「聞く姿勢」を持つ人間 「学び続ける」人間

身につけるべき力

目標から「逆算」する力 やるべきことを「具現化」する力
他者を「理解」し、「理解される」力

夢実現のための十則

- 夢を持て。ない夢はかなわぬ。目標なく一生懸命やることに酔うな。
- やることを与えられるな。自分のために創り出し、形にして期限を決めよ。
- 他人と関われ。他人を理解しようとしろ。他人に理解される努力をしろ。
- 挨拶をせよ。人に気づき、人に気付いてもらえる。
- 毎日他人に奉仕しろ。心がきれいなら他人も応援してくれる。
- 話を聞く姿勢を作れ。聞く人には教えたくなる。助けたくなる。
- 書け。何度でも書き直せ。書かないことは考えていないこと。
- 自分と戦え。自分は見ている。人と戦うな。気にするな。自分が変われ。
- 大事なことは最初にやれ。優先順位を考えろ。タイミングを逃すな。
- 成功を繰返し、失敗を繰返さぬよう分析しろ。原因を五回さかのぼれ。

今後の予定

1 1月28日(土) 講習日 面談日

面談日については、担任の出張などにより、ずれることもありますのでご了承ください。

1 1月30日(月) 生徒会選挙

来年度授業選択予備調査

1 2月 5日(土) 中間試験開始

1 2月16日(水) 授業選択調査締切

冬休み以降の学年課題 自分史作成・シンククエストの完成